



平成29年11月

岐阜県立瑞浪高校

首都圏同窓会報



第33号

首都圏同窓会会報に

寄せて



岐阜県立瑞浪高等学校
校長 高橋宗彦

ここ瑞浪では真澄が丘の坂道に落ち葉が目立ちはじめ、日増しに秋色が深くなっています。6月の首都圏同窓会の折には大変お世話になりました。この瑞高は数多くの先輩方に支えられて成り立っていることを改めて痛感いたしました。

さて、岐阜県では、長期の人口減少傾向や高齢化の進展による子ども数の減少が予測されており、県内の高校の学校規模も縮小傾向にあります。本校も例外ではなく、最大で376人（平成2年度入学生）であった入学定員も、現在は160人となっております。

このため現在、本校では同窓会長を含めた学校関係者、瑞浪市長及び教育長、瑞浪商工会議所会頭、近隣の中学校長等からなる「魅力ある瑞高づくり推進会議」を設置し、本校の更なる活性化への取組を始めたいと考えています。

今回は、この取組の現状をこの場をお借りして紹介させていただきます。

まず、第一に必要なと考えたのは、本校の魅力を正しく効果的に広報するとともに高校生がより積極的に地域で活動することで、地域に生徒の現状を認知していただく必要があるということです。

このため、今年度は同窓会からの多大なる援

助をいただき、積極的な広報として以下のような取組を実施しました。

○ 学校案内パンフレット（年2回発行）や学校ホームページの刷新

○ 効果的でシンプルな（ポイントを明確にした）説明

○ 中学3年生及びその保護者が原則として全員参加する各中学校で開催する高校説明会で、高校のセールスポイントをシンプルかつ分かりやすく説明

○ 生徒の企画・制作による学校紹介DVDの配布

○ 生徒会が企画・制作した学校紹介DVDを約4,000枚作成し、東濃地区の全ての公立中学校3年生全員と可児市の全ての中学校や周辺の中学校や関係機関にも配布

○ 生徒目線で、生徒から生徒へのインタビュを交え、学科の特徴や学校行事、部活動などを分かりやすく紹介

なお、このDVDの制作・配布については、地元新聞の紙面（県内版）にも大きく取り上げられ、話題となりました。

本校の新しいホームページ（スマートフォンにも対応）でも学校紹介DVDの動画をご覧いただけますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

（瑞浪高校ホームページ）
<http://school.sfu-net.ed.jp/mizunami-hs/>

また、瑞浪市の協力を得て、瑞浪市役所1階ロビーにデジタルサイネージ（電子看板）等を設置し、瑞浪高校の情報を提供しています。デジタルサイネージの内容（画像や動画等）は、定期的に更新し最新の情報としています。

一方、こうした対外的な広報戦略とともに、本校生徒の特性にあった学校教育の内容改善も重要です。

現在の本校生徒の卒業後の進路状況は進学から就職まで多様で、普通科においては進学が多いものの就職も一定数あり、進学先も四年制大学から専門学校まで多岐に亘っています。また、半数近くが就職する生活福祉科においても進学

を希望する者は多く、進学先はさらに多様な状況となっております。

こうした生徒の個々の多様な学習ニーズに十分に対応するため、生徒の進路希望に応じた多様な科目を開設し、それを進路希望別の類型に分けて選択できるようにした「進路希望別カリキュラム」を、平成30年度入学生から実施することとしました。また、進路希望に応じて、生活福祉科の科目も選択できるようにしました。

さらに、現在実施している進学や就職に関する補習を再編成するとともに、新たなプログラムを加え強化した、進学から就職まで瑞浪高校だけで全て実現できることをキャッチフレーズとする「瑞高塾」の実施も予定しています。

以上のように、「魅力ある瑞高づくり推進会議」を核として、小中学校や同窓会・PTAを含んだ学校関係者、さらには地域や産業界及び行政等も巻き込んだ高校活性化に向けた体制が整ったところとす。さらに、本校の同窓会等からの予算的支援や県の高校活性化に関する事業などにより学校単独では成し得なかった取組を実施できています。

また、こうした取組が瑞浪高校を目指す中学生の増加にも直接繋がっており、希望者は増加傾向にあります。

一方で、活性化の取組の継続した実施、さらなる少子化への対応等、高校を取り巻く環境は大変に厳しく、地域に定着する人材育成といった観点から、地元の産業界等と連携した具体的なプログラムを実施するなど、地域と一体となったキャリア教育の充実も優先課題となっております。

瑞高が今後も発展していくためには、全職員が一体となった取組が必要になるとともに、「魅力ある瑞高づくり推進会議」をさらに発展し、例えばコミュニケーション等、地域と学校が一体となった取組を継続して実施できるようにシステムについても検討する必要があると考えております。

引き続き首都圏の先輩方からのご指導・ご鞭撻をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

このため、今年度は同窓会からの多大なる援

横浜の自然と動植物



瑞浪高校首都圏同窓会幹事
倉本一平 (S45年卒)

私は横浜市港南区上永谷（かみながや）で暮らしています。ここで暮らし始めて11年くらい経つのですが、横浜の住宅地にしては自然があるので満足しています。散歩によく行く場所は自宅近くの上永谷緑地と永谷川周辺です。山登りをしていると知らない人でも互いに挨拶をしますが、散歩でも挨拶をしあうようになり、自然に知り合いが出来ます。ここでは散歩のときに見る横浜にもある自然と動植物にふれます。

動物（タヌキ、リス）
自宅の前に上永谷緑地があり、そこにはタヌキの家族が暮らしています。タヌキは夜行性動物なので以前は深夜に3、4匹の家族で近所を徘徊していました。最近では子タヌキが独立したようで単独で歩き回っています。この上永谷緑地にはリスもいます。竹林の中にいくと上の方で気配がし、何かと見回しているとリスが竹の枝を走り飛び廻っていました。鎌倉の佐助稲荷にリスがいるのを見たことはありますが、横浜に野生のリスがいるのには驚きました。

植物（セリ、クレソン、山独活、山椒、フキ、ヤマフキ、タケノコ、ガマ、ヨシ）
永谷川周辺は野草の宝庫です。セリ、クレソン（西洋セリ）、山独活、フキは、食べることの出来る野草ですが、クレソン（西洋セリ）は渡り鳥が種を運んできたものと思われまます。セリは春の七草に挙げられる野草ですが、このあたりにはセリが多く自生していた

らしく、近くに芹が谷という地名のこっているくらいです。ガマとヨシは向日葵を育てている人が霜で根腐れしないよう地面に敷いています。水仙、葵、山吹はきれいな花を咲かせ楽しませてくれます。タケノコと山椒も上永谷緑地に自生しています。

鳥（カワセミ、真ガモ、カルガモ、コガモ、バン、川鶴、白鷺、五位鷺、鶴、ハクセキレイ、ウグイス、メジロ、山鳩）

カワセミは本来なら清流にしかないはずの緑と黄色のパステルカラーをした非常に美しい鳥です。以前朝の散歩をしていてカワセミが川にダイビングして小魚を捕えるところを目の当たりにしました。偶然、その日の新聞のI.O.Sの新聞紙一面のコマーシャルでダイビングして小魚をまさに捕らえようとしているカワセミが写っていましたが、その写真のカワセミよりも私の見たカワセミの方がきれいでした。因みにカワセミがダイビングして魚を捕る場面を見たことはこの日を含め三度程あります。カワセミは羽ばたきのしかたが独特で水平方向や垂直方向に一直線に飛んでいくのですぐ判ります。又、前の家のフェンスにとまっていたこともありました。



真ガモ、カルガモ、コガモも永谷川には生息しています。これらは渡り鳥ですが、渡らずに一年中永谷川に常駐している鳥もかなりいます。白鷺もよく見かける鳥で河原で小魚をとっています。白鷺は白くきれいな鳥ですが、五位鷺は白とグレイの羽根をもつ地味な鳥です。しかし五位鷺が見られるのはまれです。今は五位鷺のほうが珍しい鳥になったようです。

セキレイも河原に多くいます。頭から胴体にかけてグレイで尾の白い鳥で、尾を小刻みに揺らして歩くのすぐ見分けられます。水鳥の中でバンも渡り鳥ですが、カモに比べ泳ぎ方がへたなようです。永谷川ではバンは珍しい鳥です。鶴は美しく、冬に一度見たきりです。

珍しい鳥といえば以前は山鳩は美しく、町中で見られるのは伝書鳩になるドバトでした。山鳩は頭が小さく、ドバトは山鳩に較べ頭の大きい鳩です。山鳩は禁

猟になってからその数を増し、今全国で見られるのは山鳩のようです。上永谷の駅前でも山鳩が群れています。昔よく見られたドバトが見られなくなったのが、むしろ不思議です。

川鶴は土岐川でも見られましたが、川に潜り魚をとっています。長良川の鵜飼で利用されるのは海鵜のようです。

ウグイスは上永谷緑地に生息しており、3月末から9月上旬の毎朝11時頃迄美しい鳴き声で楽しませてくれます。上永谷緑地は家の前なので玄関でウグイスの鳴き声を聞くことが出来ます。高校時代の夏休みに登校すると瑞高の裏山の神社の周辺でうるさいぐらいに鳴いていたのが思い起こされます。ウグイスは鳴くのが雄で鳴き声で雌を呼んでいるのだそうです。秋にはウグイスは河原で過ごし、今はあまり見られなくなった雀と区別がつかなくなるようです。

メジロはウグイスにそっくりな鳥ですが、目の廻りが白くウグイスのような鳴き声では鳴きません。初夏に2、3度見たきりです。

魚（鮎、鰻、鯉、ギンブナ、オイカワ、メダカ）
又、永谷川には鮎、鰻、鯉、ギンブナ、オイカワ、メダカが生息していますが、カワセミや川鶴が捕食しているのは小鮎やオイカワだと思われまます。鯉はまるまる太ったものがかなり多くいます。鰻は川の瀬んだとこに生息しており、釣った人もいるようです。

横浜の川で天然の鰻がいるのには驚きました。以前四日市で台風の日田圃の畦道を蛇が大雨の中這っているのを見たことがあります。それは蛇ではなく鰻でした。鰻は大雨の日には下流から上流に溯っていくようです。

メダカは今絶滅危惧種に指定されていますが、永谷川には生息しているようですが私は見たことがありません。

ギンブナも永谷川にはいるようです。これも今は珍しい魚になっています。



光陰矢の如く



瑞浪高校首都圏同窓会幹事
加藤桂吾 (S46年卒)

思えば1971年(昭和46年)に瑞高を卒業してからもう46年になります。

東京での大学生活を経てサラリーマン人生をスタート。入社数年後に海外駐在員としてイタリアに赴任。ローマに3年、ミラノに12年と、15年間の海外生活。帰国から6年後に古巣の会社を退社し、イタリアと日本の合弁企業に3年間の勤務を経てコンサルティンク会社を立ち上げ独立。

会社設立14期目の本年、65才を節目にリタイアしました。

赴任期間を含め約40年間を欧州・日本間でのビジネスに携わったことになりました。そんなわけで当会報への寄稿は、赴任当初のイタリアでのエピソードとなりました。

真新しいパスポートを携え、開港直後の成田新国際空港を飛び立ったのが、若干25歳の時です。

1978年(昭和53年)6月30日。まだ欧州直行便が無く北廻りのアンカレッジ経由でドイツへ入り、更には乗り継ぎ便で2時間、漸く赤茶けた屋根瓦を眼下に降りたのは異国の地、ローマでした。

オレンジ色に輝く夕日がとても眩しかったのを覚えていません。

入国手続きを終え、出迎えの先輩駐在員と合流したその時です。つい私が一言「周りは外人ばかり、先輩を見てはっとしました。」



それを聞いた先輩曰く、「バカ!ここではお前さんが外人だよ。」

生れてはじめての海外赴任でしたから、よほど緊張していたのでしょう。今でも同時代の駐在員仲間が集まると酒の肴にされます。

さて、当時のイタリアは、連立政権下で政治は常に不安定、デモやストライキは日常茶飯事、加えてテロの恐怖等々、後年「危機の時代」と称されるほど混乱の時代でした。この年の5月には、極左テロ組織「赤い旅団」による元首相モロ氏誘拐暗殺事件が起きたばかり。空港はもちろん街中が自動小銃を構えた警察官で溢れていました。

確か8月の暑い夜遅くでした。夜食にピッツアを食べようと先輩の車に同乗し、ピッツェリアに向ったのです。その途中、クイリナーレ宮殿という大統領府の角を通り過ぎようとした時です。ローマの中心街であっても夜は日本の都心と違い驚くほど薄暗く、人通りも少ないのです。しかも運悪く我々の車のみ。

そこへ自動小銃を構えた軍事憲兵二人に車を止められました。すると車の両サイドに歩み寄り、銃口を突き付けホルドアップ。道路の反対側では、同じく憲兵が一人こちらに銃を向けています。間近に銃を見たこともなければ、銃口を胸元に突きつけられたことありません。ピッキリ仰天、膝はガクガク。

とにかく言われるままに車を降りボンネットに両手を乗せたところ、後ろから入念にボディチェック。更には両袖をたくしあげるように言われ、最後に身分証明書の提示を求められました。ところが、赴任直後で不慣れでもあった私は、ビザ(滞在許可証)未携帯だったのです。散々にチェックされた後、明朝ビザを持って警察本署の外国人局に出頭することを条件にやっと解放されたのです。

翌朝警察本署に向くと、当時私がかかり細身で華奢だったため麻薬常習者と誤認されたとのこと。但し、ビザ不携帯だけは嚴重注意でした。

お陰で、外国での長期滞在者の必需品としてビザは常時携帯すべし、という貴重な教訓を得ました。今でもこの習慣が染みついております。

当時の苦い経験や失敗談は数多いのですが今ではその一つひとつが良き思い出です。

第23回総会 (平成29年6月3日) 学士会館





瑞浪高校首都圏同窓会 第23回総会 (平成29年6月3日: 学士会館)

第23回総会のご報告

- 会員参加者：43名 (男性36名・女性：7名)
 - ご来賓参加者：7名
- 瑞浪市副市長 勝 康弘 様 瑞浪高校校長 高橋宗彦 先生
 瑞浪高校渉外部長 横井雅代 先生 瑞浪高校同窓会会長 加藤健二 様
 瑞浪高校同窓会副会長 田中 定 様 瑞浪市連合自治会副会長 伊藤修二 様
 恵那高校代表 伊藤和徳 様

首都圏同窓会の更なる発展のために

毎年、都内で瑞浪高校首都圏同窓会が開催されていますが、今年6月3日の出席者は、瑞浪市の副市長や瑞浪高校の校長先生など来賓を含めても40人程度でした。

首都圏に住んでいる卒業生は分かっているだけで、150人ほどいますので、同窓会幹事としましては、もう少し出席者を増やす努力をしなければなりません。

今年から、昭和45年卒業で定年は過ぎたが気だけは若く、活気に溢れている老人5人が新たに幹事に加わり、皆さんが集まりやすい会場探しや出席しやすい参加費の設定、同窓会を盛り上げる楽しい企画などを考えています。

本同窓会は、首都圏にお住いの皆さんが一堂に会し、互いに助け合い、発展するための絆を作る場所だと思っています。

次の同窓会は、前回以上に満足していただける内容にしますので、案内状が届きましたら是非、出席に○をつけて返信してください。お願いします。

(副幹事長 長谷川周三)

瑞浪高校首都圏同窓会会計報告

自平成28年4月1日 至平成29年3月31日 単位:円

収入の部		支出の部	
総会会費	309,000	総会費用	539,993
寄付・祝儀	150,000	通信費	22,689
預金利子その他	2,104	事務費	0
		会議費	38,413
		慶弔・交際費	0
		印刷・コピー費	55,594
前期よりの繰越金	1,076,298	次期繰越金	880,713
合計	1,537,402	合計	1,537,402

瑞浪高校首都圏同窓会役員人事

第12期(平成29年4月1日～31年3月31日) 赤字:新任

- 会長 小栗清吾(33年)
 副会長 鈴木紀夫(34年) 伊藤一徳(45年)
 顧問 安藤速雄(25年) 野平博之(30年) 梶田 収(30年)
 下条宗男(32年) 中島千尋(32年) 浜島泰久(32年)
 永治重次(33年)
 監事 永井士郎(33年) 塚本信行(41年)
 幹事長 宮田栄子(46年)
 副幹事長 長谷川周三(45年) 川野勝喜(54年)
 会計幹事 安藤克子(37年)
 幹事 平野正敏(29年) 中島達也(31年) 渡辺弘子(34年)
 工藤英雄(35年) 伊東和子(36年) 土屋 修(41年)
 三宅保信(42年) 日比野敏子(43年) 虎沢昭久(45年)
 山田耕士(45年) 倉本一平(45年) 松原博隆(45年)
 加藤桂吾(46年) 水野久志(47年) 洞田 潤(H12年)

第23回総会 (平成29年6月3日) 学士会館

